



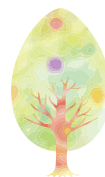
**栄光園だより**  
第109号  
2017年10月31日発行  
発行  
社会福祉法人 栄光園  
別府市南莊園町3組  
〒874-0904 電話 (23) 2827  
振込口座 01930-2-20748  
編集 広報誌編集委員会  
印刷 大野印刷株式会社  
別府市青山1-7 電話 (21) 0505

# 子供たちを来させなさい



理事(民生児童委員)

猪股通安



そのとき、イエスに手を置いて祈っていたために、人々が子供たちを連れて来た。弟子たちはこの人々を叱った。しかし、イエスは言われた。「子供たちを来させなさい。わたしのところに来るのを妨げてはならない。天の国はこのような者たちのものである。」そして、子供たちに手を置いてから、そこを立ち去られた。

(マタイによる福音書19:13-15)

秋の運動会で子どもたちの歓声が聞かれました。子どもの声や笑顔は心地よいものです。毎月曜日、小学校の正門に並んであいさつ運動をしています。「おはようー」と元気にあいさつと笑顔が返ってきます。中にはしよんぼりして、心配になる子もいますが、校長先生や教頭先生たちの声掛けで少

元気を取り戻します。顔見知りの栄光園の児童も元気に登校してきます。

保育の仕事を辞め、7年が経ちますが、まだ子どもたちと触れ合う機会が与えられています。

先日の農業祭で「園長先生」と声をかけてきた家族がいました。お父さんが重度の障害を持つ長男に「園長先生だよ。覚えとるか？」と尋ねるとニコッと笑って「うん」とうなずきました。私が「なっちゃんは何年生になった？」と長女に聞くと、「中1です」という返事があった。二人の懐かしく大きく成長した姿がうれしくなりました。

昨年の夏、孫と遊園地に行ったとき、遊園地のスタッフが私をチツラチツラとみるのです。誰かなと思いい出していると保育園児だったS君でした。「S

君?」「そうです。園長先生、わかりました。」と笑顔が返ってきました。もう立派な社会人になっていたので。このような出会いが時々あります。4・5歳の幼児が、中学生や高校生、社会人になっても私を覚えていて声を掛けてくれるのです。

また、在職20年を過ぎた頃から、「園長先生！覚えていますか?〇〇です。お久しぶりです。今度、私の子どもが入園します。よろしくお願いします。」と卒園児が結婚し、その子どもが入園してくるようになりました。このような素晴らしい子どもたちの

成長に関われたことに誇りを感じます。子どもたちやその両親に覚えられているだけでもすごくうれしいことです。しかし、私は、神様にいつも覚えられていたのです。保育の仕事に就いたことも偶然(ある意味では必然)の転職であり、イエス様との出会いへの道でした。

苦しいことや涙することも多々ありましたが、振り返ってみると、常にイエス様が共にいてくださり、慰めと恵みに充たされていました。40年間保育の仕事に携われたことは、神様の恵みであり、感謝です。

## クリスマス祝会のご案内

12月16日(土) 13時より

児童養護施設栄光園では、毎年12月の第3土曜日、クリスマスの祝会をホールにて行っております。

本年度は、12月16日(土)13時より礼拝と祝会が始まります。その後、会食となります。年末のお忙しい中ですが、心を静めてイエス・キリストのご降誕を子どもたちと共にお祝いしていただかせませんか。お立ちよりいただければ、ありがたいです。

参加費は無料で、お志等は固く辞退させていただいております。

